

ブロッコリー (アブラナ科)

播種時期にあった品種を選ぶ。極早生、早生種は適期に追肥、土寄せを行って株づくり努める。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
11 月 どり								播種	定植	収穫			
11 ~ 1 月 どり													
12 ~ 2 月 どり													
1 ~ 3 月 どり													
5 ~ 6 月 どり													

1) 適地

冷涼な気候を好み生育適温は 20℃前後です。また、有機質の多い土壌で生育がよく、酸性土壌では石灰の施用が必要です。

2) 品種

11 月 どり：えがお、すばる、ゆめもり、幸よし、シャスター など

11~12 月 どり：ゆとり、アンフリー747、ハイツ SP など

12~2 月 どり：改良緑炎、直緑 93 号、あまぎ など

1~3 月 どり：みよ緑 3 号、ほがらか など

5~6 月 どり：えがお、すばる、シャスター、ピクセル など

3) 作り方

【播種】128 穴のセルトレイを使用します。コート種子または裸種を 1 穴に 1 粒ずつ播種して覆土し、十分に灌水します。高温期の播種では、播種後 24~36 時間は涼しい農舎内などで段積みして催芽します。その後直ちに 30~50%程度の遮光ネットを張ったハウス内に並べます。育苗期間は、播種後 25 日くらいが目安で、14 日目頃から市販の液肥を 500 倍程度に薄め、3 日に 1 回灌水代わりに与えます。低温期に播種する場合は、最低 20℃程度を確保できる育苗床の利用が不可欠です。

【圃場の準備】定植の 1 か月前に 1 m² 当たり 2 kg の堆肥と苦土石灰 150g、BM ようりん 50 g を全面に施用して深く耕します。定植の 1 週間前に 1 m² 当たりホウ素入り高度化成肥料 60g を施用し、幅 135cm の畝を立てます。

【定植】本葉が2.5～3枚になった頃が適期です。条間50cm、株間30～40cm（立性品種は狭く）の2条植えとします。定植後は散水チューブやスプリンクラーで十分灌水します。

【追肥】1回に高度化成肥料を1㎡当り30gずつ施用します。1回目の追肥は定植後15日目頃に、2回目はその後20日ほどしてから条間に施用します。晩生種ではさらに20日ほどたってから3回目の追肥を行います。株が大きくなり、条間への施用が難しくなってきたら、畝間に施用しても構いません。

【土寄せ】ブロッコリーは倒伏しやすいので、2回目の追肥時に中耕、土寄せを行います。

【収穫】頂花蕾の直形が12～15cmくらいになった頃が収穫の適期です。花蕾が固く締まっているうちに収穫しましょう。花蕾が緩んでしまったものでも食べることはできますが、販売は避けるようにしましょう。側花蕾の出る品種であれば、頂花蕾を収穫後に追肥をし、生長した側花蕾を収穫することができます。

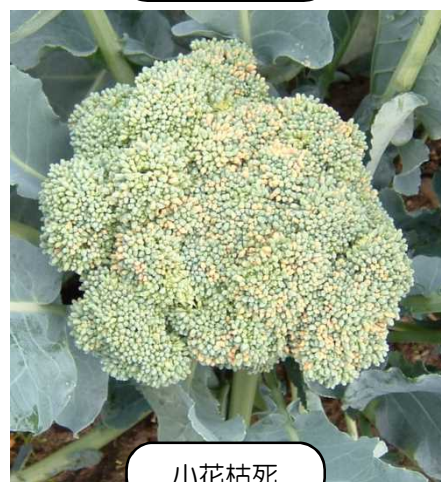
【生理障害】年内どりの作型では、収穫期が温暖な場合に個々の蕾が老化して黄色く変色する小花枯死が発生しやすくなります。また、出蕾期に高温で、花蕾の発達が早まるとホウ素欠乏が発生します。いずれも発生後の有効な対策はなく、収穫時に注意して観察し、これらのものを出荷しないようにしましょう。なお、小花枯死もホウ素欠乏も無理な早まきを避けることで、ホウ素欠乏はホウ素入りの肥料を基肥として与えておくことである程度の軽減は可能です。

4) 病虫害防除

病気ではべと病、菌核病、軟腐病が発生します。いずれも株が弱ると発生が多くなるので、排水、通風を良くし、肥培管理に努めます。害虫ではアオムシ、ハスモンヨトウ、コナガなどが発生します。大きな被害を受けてからでは遅いので、早めの防除を心がけましょう。



ホウ素欠乏



小花枯死



出荷された花蕾